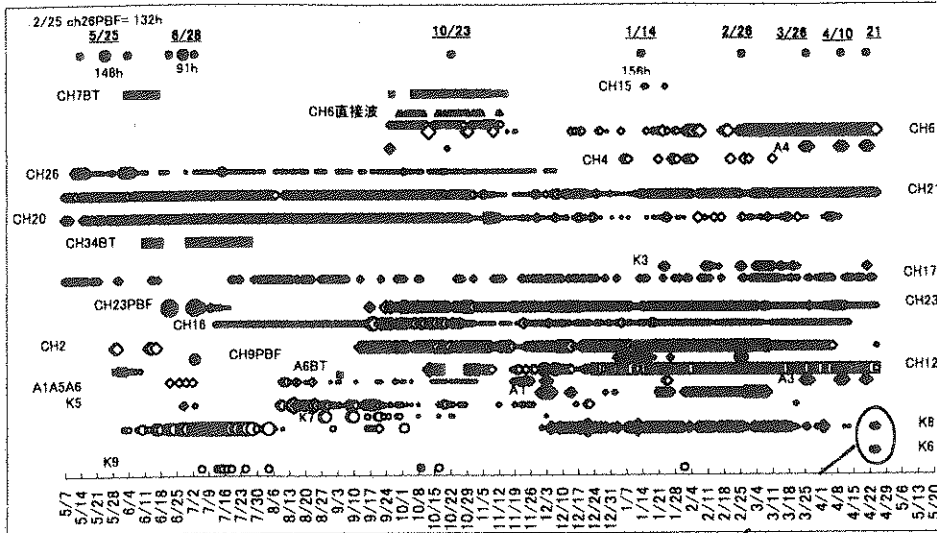


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏大型地殻地震推定前兆 続報



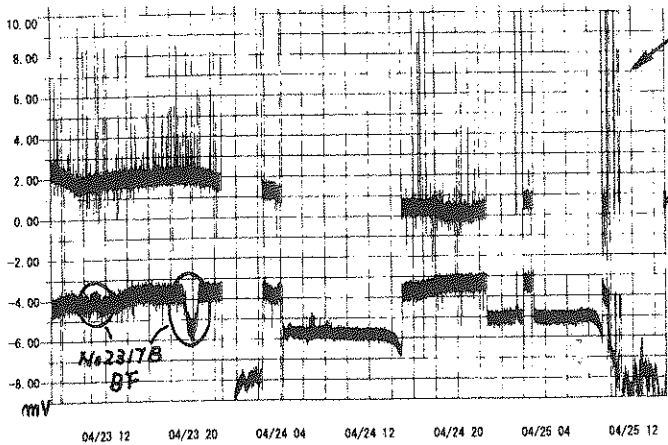
No.1778前兆=本年7月で5年継続となる、観測歴上最長継続前兆の続報です。

2012年05月から第4ステージの前兆群認識ですが、第4前兆認識前兆から、本年2013年4月29日±時期が推定されています。

問題は、この時期に対応地震発生となるのか、この時期に新たな前兆極大等が出現して、第5ステージの前兆群に突入し、地震発生はさらに先の時期となるのか?と云うことです。

日々の実験観測情報で報告しておりますとおり、前兆群の変化は、左上のとおりで、3/26 4/10 4/21の3回、秋田観測点のA3 A4 観測装置に同期する糸状特異が出現し小極大認識されました。他の観測装置の前兆動向と、先の小極大との関係を見ても、CH6, CH21, CH17, CH23, CH12等の継続前兆が、先の3小極大に対応して継続出現している可能性が示唆されます。この場合、最終認識小極大=4/21ですので、仮に4/29±に対応地震が発生するとしても、4/21極大に対応する前兆終息は、4/27深夜前後頃となり、推定発生日である4/29±の前日の4/28段階で前兆が終息するか否かの判断となり、確実な発生時期確定判断が間に合わないこととなります。(実験観測情報では既に報告済) 今回の前兆は過去に経験の無い形態で、推定が非常に難しいことをご理解下さい。

(※上のNo.1778第4期前兆群出現状況図の2012年9月初旬からのK5特異は淡路島地震の先行特異、2012年12月03日極大のA1特異は淡路島地震の極大~終息までの前兆認識ですので、上図から消去する必要があります。)(左下へ続く)



長期に継続出現していた、CH16, CH20等の特異状態前兆は完全に終息していますが、本日現在もCH21=糸状特異状態、CH17も断続的に糸状特異状態、CH6特異も継続中(CH12櫛歯前兆は本日微弱化)と、継続前兆が相変わらず継続出現している現在の状況からは、数日後に対応地震が発生することは考え難い状況ではあります。但し、先にも記したとおり最終小極大に対し、まだ前兆静穏期に入っていないことが計算できるため、判断は困難です。

上波形は高知観測点のK6, K8 観測装置に出現した、時間的に同期する特異状態です。K3, K7等にも弱く同期が見えますが、K6, K8が明確顕著です。4/12-13に続いて、4/22-23に再び高知県須崎市の高知観測点に出張し、2000年開設の観測所の基礎補修工事とアンテナとケーブル交換作業を実施致しました。観測装置の調整等も実施し、作業の影響では無い筈です。K6, K8同期特異は、No.1778前兆では観測されておりました。従って、左上のK6, K8同期特異がNo.1778前兆関連で出現した

新たな前兆か否か現段階では識別困難。4/17発生の三宅島の群発地震活動は、観測情報で事前に報告できましたとおり、明確な火山性前兆として観測されましたが、再び4/19~23まで、火山性前兆が観測され、4/23から高知観測点の複数同期特異が観測されたため、火山性前兆の関連の可能性をNo.2372観測情報(4/24配信)に報告致しましたが、火山性前兆は終息していますが、高知観測点の特異は継続顕著ですので、今回の火山性前兆とは関係無いと判断致します。

K6, K8の特異変動の向きからは、伊豆局、三峠局が推定され、検知領域-ツ円からは、No.1778推定領域も含まれます。但し、No.1778前兆とは別の新たな地震前兆(先行特異)の可能性もありますので、今後の変化を観測致します。現在の前兆継続に変化が無い状態であることをご報告し、5/1までに対応地震が発生せず、前兆が継続した場合は、発生時期は相当先となりますので、その後を観測して、続報でご報告させていただきます。